京都精華大学

大学案内・1981

男女共学

アメリカの生物生態学者J・B・カルホーン博士は、十二年ほど前に奇妙な実験を始めた。大きな〝ユニバース（宇宙）〟と名づけたオリをつくり、食べ放題・飲み放題のエサを与え、巣づくり用の紙切れも充分に入れ、ネズミを飼って、ネズミ社会の生態研究をしだしたのだ。外敵も迫害もないネズミのユートピアをつくったわけだ。最初に入れられた若い四組のネズミ夫婦は幸福で、一月ごとに四匹から八匹の子をうんだ。ネズミの一年は人間の五十年に相当する。三ケ月で成熟するネズミは次の子どもをうみ、百日目で三十二匹、二百日目で百二十五匹、三百日目で六百二十匹……と、いわゆるネズミ算式に数が倍増していったが、オリは充分広く、エサも豊富。決して、少しも困ることがなかった。ところが、三百匹をこえたころ少し社会秩序が乱れだしたが、五百六十日目の二千二百匹に達したとき、突然大異変がおこった。居住条件としては、まだまだ余裕があるのに、ネズミたちは社会的行為をいっさいしなくなり、狂って暴れるネズミ、オスにかみつくメス、生まれた子を放置して死なす母親、性行為もしないネズミ……が輩出し、あるグループの赤ん坊の死亡率は九六%。したがって、ネズミの数は減り出し、生きていたとしても放心状態だったり、エサ箱でガツガツ口を動かしているだけだったり、悲惨きわまる光景を呈し、やがてユートピアのはずの〝ユニバーサル〟のネズミは、全滅してしまった。過剰人口（いや〝過剰鼠口〟というべきか）によるストレスが原因なのであった。

人間はネズミではない。しかし、人間も同じく動物ではある。このネズミの問題は、豊かになった文明過密人口社会を考える場合、少くとも大事な警鐘にはなろう。いや、ぼくはもっともっとこの例を重要視したいのだ。大学もマンモスにすべきでない。人間の一生を決定する大学生活は、のびのびすべきである。人間の自由を追求し、自己形成をなしとげ、障害にたじろがない〝個〟をつくり、友愛の精神を養っておくべきである。

教学内容やカリキュラムについては、次の頁からいろいろ説明があるので、ここでは触れない。しかし、山すそのわれわれの小さな大学には、校章も校歌もないが、〝自由〟への志向があり、学生たちはのびのびとしていることを、強調しておきたい。われわれ教職員も先輩の学生諸君も用務員さんも、やる気のある新入生の仲間入りを、待ち望んでいる。

学長／深作光貞

松井晴美
［滋賀八幡高等'78年度英語英文科］

私は精華という空間で、二年間を過した。今、思い返してみると、精華の匂いや、肌ざわりや、エネルギーを感じることができる。

けれども、この二年間の全てが充実したものであったとはいい難い。私は精華の学生だった時に、自分の中で水のように滑らかに流れてゆくものを見つけた。それは諸々のものに感ずる感情の流れだ。人によっては、それが英語や美術を学ぶことかもしれないし、人や未知なるものとの触れあいであるかもしれない。

精華にはユニークなクラスがあるから、感性のアンテナを広げれば、きっと何かひっかかってくると思う。アンテナを立てることまで精華はやってくれない。

あの楽しかった日々が、あまりにも早く過ぎ去ったように、辛い時も、同じ速さで過ぎてゆくものだ。精華を目印に集ってくる人や情報を、まだまだ活用したい。

学科課程概要

もくじ

3 一般教育
6 図書館
8 短期大学部・英語英文科
18 美術学部
28 美術展
30 アッセンブリー・アワー
32 学寮
34 卒業後の進路
36 キャンパスライフ
37 朽木学舎
44 教員組織
46 教職員紹介
表6 大学への交通案内

一般教育

大学のカリキュラムの中に、一般教育なるものをもちこんだのは、多分、一九四六年のアメリカ教育使節団の報告書だろうと思う。

右のゼネラル・エジュケーションを訳して一般教育というようになったのであろう。新制大学は本来、専門教育と併せて一般教育を必須のものとしてきているが、それは人文科学、社会科学、自然科学の三分野からなり、広義にはそれらに外国語及び保健

In the curriculum of Japanese institutions of higher learning, we think, as has already been suggested, that for the most part there is too little opportunity for general education, too early and too narrow a specialization, and too great a vocational or proffessional emphasis.

体育の各分野を含めている。

報告書も強調しているとおり、専門教育が狭い専門性の殻に閉じこもることなく、より広い視野にたち、自分の専門を社会の全体像の中に位置づけて総合的に対処し、かつ人生を豊かにする基礎を学生に与えることが一般教育の目的であろう。それは三分野の専門科学の講義を羅列して、それぞれについて過不足なく均等的に受講させればよい、というようなものではないから、どの大学でも、学生の人間性の調和ある発展や、主体的に人生に対処しうるまでに青年期の完成を助ける意味で、一般教育のあり方、内容について研究し工夫を重ねてきている。本校もまた同様で、次にかかげる講義の主題名からもその一端を御推量頂けるかと思う。

一、感受性のアンテナを敏感にしよう。
一、愛の思想史。
一、差別と疎外からの解放。
一、オセアニア美術と文化。
一、法と私たちの生活。
一、科学の成立と文明。
一、日常の科学、色の科学。等々。

以上のほかに保健理論と体育実技があり、燃えたつ青春のエネルギーにこたえ、また、広い国際性を培うために外国語科目がある。英語、フランス語、朝鮮語を科目とし、とくに朝鮮語はアジアへの関心を育てるために大切で、朝鮮語を開講している大学は全国でも少い。

われわれの大学は四年制の美術学部と二年制の英語英文科よりなる最少単位の総合大学である。二つの学部、学科の総合を具体化しているのが一般教育であり、美術の学生も英文の学生もともに一つの教室で学んでいる。

教職課程

教育原理	2単位
教育心理学	2単位
教育社会学	2単位
道徳教育の研究	2単位
教科教育法	2単位
教育実習	2単位

●上記の科目を含めて、必要な単位を履修した者には中学校2級普通免許状(英語)が与えられる。

教育原理	4単位
教育心理学	4単位
教育史	2単位
教育社会学	2単位
道徳教育の研究	2単位
教科教育法	4単位
教育実習	2単位

●上記の科目を含めて必要な単位を履修した者には中学校1級・高等学校2級(美術)普通免許状が与えられる。

基礎ゼミ

ゼミとはゼミナールの略称で、英語のセミナーである。演習ともいうが、教師よりも学生が主体になって発表したり、討論したりする形式をいう。

「基礎ゼミ」は基礎的なさまざまな問題を考えるところから名づけられたが、普通の講義科目にはない今日的な、あるいは根本的なテーマを扱っている。それも一〇人から三〇人ぐらいの小クラスに分かれているから、自分のやりたいと思う問題を発見し、よい友人と教師に出合うことができるだろう。一九八〇年度のテーマはつぎのようである。

「技術と人間」
「児童文学を読もう」
「自然と農」
「人間にとって福祉とは」
「作品をことばで語る」
「色彩体験と主体性」
「性、戸籍、市民権そして国籍」
「天文学」
「差別について考える」

児童文学を読もう　自然と農

1980
美術展（京都市美術館）